

米国カリフォルニア州の尊厳死の支援者間における相容れなさ

——政治的側面と医療的側面に着眼して——

鹿児島大学

片桐資津子

1 目的と方法

この報告では、カリフォルニア州において尊厳死を希望する患者に致死薬を処方する医師と全国支援組織で尊厳死の法制化に尽力する地位にいるスタッフに着目し、かれら支援者が抱える“相容れなさ”を探索する。

尊厳死の法制化を支援するのは、Compassion & Choices や Death with Dignity National Center といったようなナショナル支援組織である。こういったナショナル支援組織の貢献は大きい。加えて、ローカル支援組織も重要である。両組織の支援内容は重なる部分もある。前者は全米において尊厳死の法制化を目指す。後者は尊厳死を希望する患者に処方医師を紹介したり、関心のある州民に啓発・教育をしたり、あるいはベッド・サイドで患者を支援したりする。

本報告では、米国カリフォルニア州の致死薬の処方医師に着目し、尊厳死の法制化を推進する全国支援組織の Compassion & Choices や DWD National Center のあいだに生じる“相容れなさ”を浮き彫りにすることを研究課題としたい。

2 調査方法

聞き取り調査を実施した。質問内容は、支援の際に苦労していること／大変なことは何かというもので、非構造化されたインタビューとなった。2018 年の実施日と対象者は次の通り。Oregon 州の Portland では、3 月 30 日と 4 月 21 日に Compassion & Choices と DWD National Center の Director に、End of Life Choices Oregon の Director に、4 月 23 日と 30 日に OHSU Hospital の新人医師 2 人にインタビューをおこなっている。California 州では、3 月 31 日に Berkeley 在住の処方医師に、5 月 2 日に Newport Beach 在住の処方医師に、5 月 3 日に San Francisco 在住の倫理学者。

3 結果と結論

政治的側面に焦点を当てるナショナル支援組織は“尊厳死のイメージ”を重視する。ゆえに法律の呼び方に工夫を凝らし、反対者から指摘される「すべり坂」問題を回避するために、患者による最初の口頭リクエストから次の口頭リクエストまでの期間を延長して、世間に慎重さをアピールする。

医療的側面に焦点を当てるローカル支援組織は“苦しめない致死薬”を重視する。カリフォルニア州では尊厳死の致死薬処方医師が少ないため、患者の医師へのアクセスが難しい。期間延長で慎重さをアピールした結果、患者が身体的に衰弱していて、致死薬を飲む込めないこともある。

このように尊厳死を希望する患者への支援に際して、ナショナルとローカルの支援組織の間に生じる“相容れなさ”は、政治的側面と医療的側面に関する問題であるとまとめられる。

文献

片桐資津子, 2014, 「米オレゴン州の尊厳死——州政府による統計と専門職への聞き取りからの考察」『現代社会学研究』27: 55-71.

——, 2018, 「米オレゴン州の尊厳死——州政府による統計と専門職への聞き取りからの考察」『現代社会学研究』27: 55-71.

Miller, Pamela J., Susan C. Hedlund, and Ann B. Soule, 2006, “Conversations at the End of Life: The Challenge to Support Patients Who Consider Death with Dignity in Oregon,” *Journal of Social Work in End-of-Life & Palliative Care*, 2 (2): 25-43.